

駅前を中心に都市改造 道路の改良、補修も急ぐ

花園地区都市改造事業は、ことしはどのような事業が行われるのか。

最近留萌市で行われた都市計画事業の中で、花園地区の事業は大規模なものだが、とくにこの地区は駅前を中心とした市街地の造成という非常に重要なことである。

事業の実施には、商店などを含めて三十七戸の家屋移転があるため、むずかしさはあるが、地域住民の協力を得て、円滑に実施し、明年度からはまる新幹線道路の造成など諸事に備えたい。

毎年道路の改修が行われているけれども、全般的

に多くないようだが、



経済圏と結ぶ交通網の整備を

また、留萌と旭川間の国道の舗装化は、ことしから着工されることになっていますが、留萌港の進捗とともに、重大な動脈路線ですので、早急に完成するよう要請します。共栄圏関連国道の舗装の実施も、早急に完成するよう要請したい。

人の住む所に道路ありといわれるほど、数の多い道路行政は、なかなかむずかしいでしょう。

限られた予算で、数多い市道を維持管理することがむずかしいことは、先きに説明し、そのため道々に昇格して、道の管理とするよう

これは、適切な道路行政ができませんので、この調査でまず市道の現状を正確につかみ、そして、将来の道路整備計画のもとにしようというわけです。

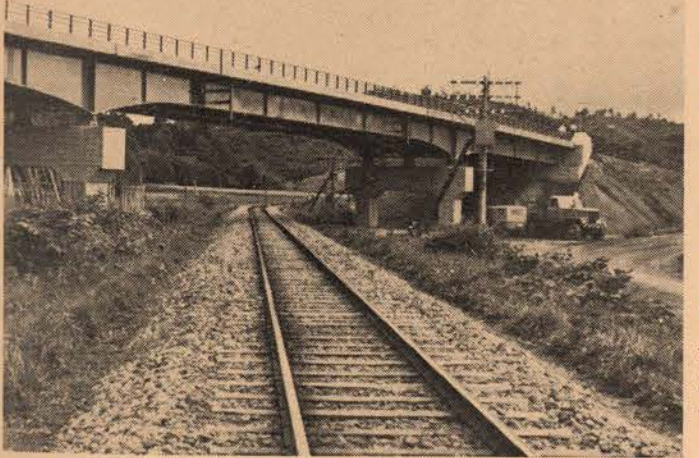


花園地区の都市改造もことしは家屋移転から

市道、橋、排水溝などの改良補修などに、ことしは総額一千二百六十一万円をかける予定です。

しかし、これだけ多額の予算を投じても全般的な改良補修には手が届かない。これは、市道が多く、しかも本州方面よりも多額の経費がかかるという特殊事情によるからです。

そこで、改良補修を今後も進めると同時に、市道を道々に昇格するよう道に要請しようと考えています。

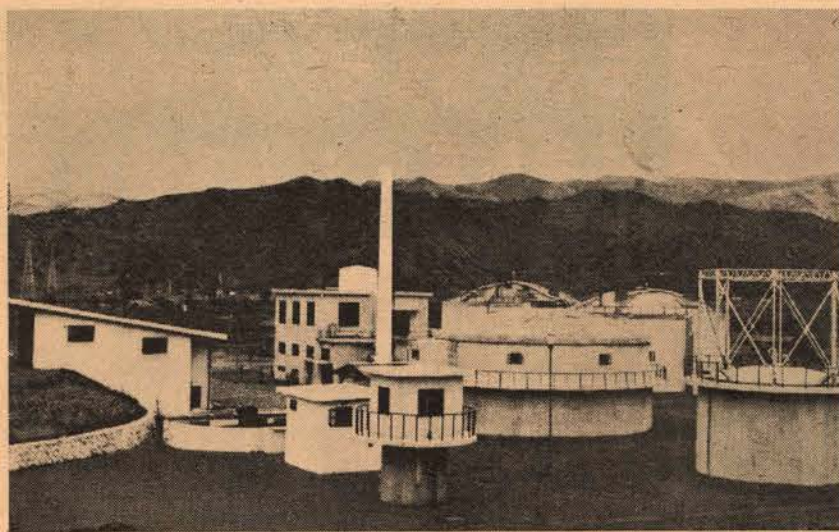


経済圏との交通網整備に国道の切替えも

し尿処理場を藤山町に完成 公営住宅も六十六戸を建設

その日の市民生活に関係のある福祉行政は、どんなことをとりあげたのか。

とかく、福祉行政は、港湾、産業などより軽視されていると誤解されがちだが、そんなことはない。



このようなし尿処理場が完成します

健康で明るく住みよい留萌の建設を唱い、市民福祉の向上は、市政の重点施策の一つとして上げている。ことしは、子どもの遊び場を作る地域に、設備の補助金を出すこと決めたほか、少年補導センターの運営費を増額するなど、子供の健全な育成に力を入れている。

また、総額六千四百万円をかけた汚物処理場を、本年度中に完成し、昭和四十年から、運転開始をするとか、じん芥処理車をさらに二台増やすなど、生活環境の整備をします。

国保病院も、四月一日から市立病院として、二つの病院を合併し、市立病院の経営合理化と近代医療施設の整備を目標にした、総合病院建設の準備体制を整えました。

そのほか、大和田地区に大和田生活館の建設、消防施設で、消火栓十七基の増設するほか、損保賠償の獲得によって、消防水利施設を、層充実し、火災保険料率の引下げを考えています。

ところで、大和田生活館はどんなものか。

大和田地区の福祉施設として建てるもので、この地区は、炭鉱の廃山に伴い季節労働者などで生活している人が多いので、生活環境を整備しようと、近く着工する。

この会館では、季節保育所や、福祉事務所職員などによる生活相談、老人クラブの開設、診療相談など、本当に地区住民の生活に役立てたい。

もちろん、留萌市内でははじめて建てられるもので、道から補助金がある。ことしの公営住宅はどの位建つのか。

本年度を初年度とする国の住宅建設第五次三カ年計画にあわせ、市では三カ年の特定計画を樹て、ことしは六十六戸の市営住宅を建てる。

なお、このほか道営住宅は、十六戸建てられる。

失業対策事業はどうか

ことしは五万人の労働者を吸収する計画を樹てた。失業対策事業といつても単に失業者に働らく機会を与えるというだけでなく、市の行政と関連づけて行う千望台の観光開発が、もととはいえば、失業対策事業による観光道路の造成にあつたのは記憶に新しい。ことしは、道路、排水溝の工事はもちろんですが、三十八年の三倍に及ぶ公営住宅の宅地造成、見晴公園

野球場、テニスコート、元町児童公園の表土置換、それに採石事業などをやる。

なお、採石事業は、労働者の安全などから、採石の仕事は業者に請負わせ、失業者には砕石の仕事を行うことにした。

辺地対策をうたつてい

るが、どのようなことをするののか。

たとえば、学校教育では周辺校の整備に力を入れるなど、各方面でそれぞれ行うが、とくに、民生福祉方面では、約七十万円をかけた簡易飲料水施設の整備、無灯火地帯の解消、有線電話の完成などをとりあげ、

うにしたいと考えています。そのほかに、市道を適確に把握しておくことも大切です。

そこで、きよねん二十万円ではじめた「道路現況調査」をかき、ことしは八十万円を、さいて続けます。

部落のすみずみまで網のよう広がる市道は、実際は道路用地なのに、住宅が建てられて、狭い道路になつていたりすることがあります。

これでは、適切な道路行政ができませんので、この調査でまず市道の現状を正確につかみ、そして、将来の道路整備計画のもとにしようというわけです。



恵まれない辺地の生活環境を早急に整備することなどを行うことにしています。